

第42回 全国トラックドライバー・コンテスト

講 評

平成22年10月25日

(社) 全日本トラック協会

専務理事 細野 高弘

第42回全国トラックドライバー・コンテストは、一昨日、昨日の2日間にわたり、前年とほぼ同規模の142名の選手が参加して、茨城県ひたちなか市の自動車安全運転センター安全運転中央研修所で開催されました。初日は選手の皆様に歓迎されるかのような曇一つない秋晴れ、二日目は晴れ後曇りの穏やかな気候の中で開催されました。選手の皆さんも応えて元気一杯競技に取り組めたことと思います。応援の方も多数訪れ、和やかな中にも厳しい競技会となりました。

2日間の競技において、休日にもかかわらず競技の審査をお願いいたしました自動車安全運転センター安全運転中央研修所の皆様のご配慮と熱意に改めて感謝申し上げます。また、整備点検競技のアシスタントをおつとめいただいた自動車会社各社の皆様にもお礼を申し上げます。

それでは講評を申し上げます。

最初に、学科競技です。満点の450点が4トン部門に3名、11トン部門3名、トレーラ部門7名、女性部門3名の16名と、昨年より1名を大幅に超える結果となりました。総平均も412点と昨年の403点から大幅上昇という好成績でした。

問題別に見ると、交通法規の5番、進行方向別通行区分の標識を進行禁止と誤ったもの、8番の道路標識の定義、40番の免許証の更新手続きについても規程通りでしたが、誤解された方が全体の3割以上いらっしゃいました。

構造機能の50番は道路運送車両法の自動車の種別の定義通りでしたが、3割以上の方が誤解されていたようです。55番のタイヤの溝の深さについての日常点検の時期ですが、同様に考えすぎた方が、4分の1以上いらっしゃいました。

運転常識の77番、自賠責保険の支払い限度ですが、3千万円を5千万円と誤解していた方が多くいらっしゃいました。81番の運輸部門のトラックから排出されるCO2の割合については、環境省データでは35%となっております。トラックの社会貢献についても業界に携わる者として押さえていただくようお願いいたします。

整備点検競技では、142名の半数以上の73名が200点満点でした。昨年の60名に比べて13名の大幅な増加となりました。20点を超える減点は13名、10点を超える減点は30名、平均点192.4点の好成績でした。

作為箇所未指摘として見落としが多かったのは、タイヤの空気圧不足が20名でした。また、灯火の不灯、損傷を指摘できなかったのが18件ありました。タイヤについてはその他誤指摘等が43件あり、点検ハンマーの叩き方については、叩き方、場所、回数等を着実に行う事が大切であり、普段の動作が問われることとなります。また、灯火の誤指摘等も28件ありました。

11トン部門とトレーラ部門についてはディスクホイールの取り付け状態の不良が設定してありましたが、指摘できない例が6件あり残念でした。

また、ワイパー、ウォッシャー関係の作為箇所未指摘、誤指摘等が合計20件あったのが印象的でした。ブレーキ関係の誤指摘等も12件ありました。普

段の中から、合理的な点検手順が確実に習慣化されている事が見落としのない点検に結びつくのご指摘もいただいております。

運転競技では、満点の方は4トン部門で4名、11トン部門で3名の合計7名で、昨年の12名に比べて減りました。しかしながら、審査官の方の報告では年々レベルが上がっており、高い評価をいただいております。特に環境意識の高まりをふまえて、省エネ運転、アイドリングストップの徹底などが進んでおり、女性部門についても男性と見劣りしない運転操作であるとの評価もいただいております。

しかしながら、法規走行では、大型車において右左折の進路の取り方が適切ではない、指定場所での一時停止が確実ではない例が見受けられました。また、安全確認の動作も、声かけはしっかりしているが中身が伴わない例も見受けられました。

課題走行では、例年のことではありますが、途中まで良い成績にもかかわらず車庫入れで接触してしまうという残念な例も何件も見受けられました。また、車両感覚に問題があるため、パイロンタッチ、切り返しなども見受けられました。

競技別得点の合計の最高得点は、1000点満点中995点という優秀な成績でした。昨年の最高得点である990点以上の方も、相当数いらっしゃいました。

各部門の入賞者の氏名は、このあと発表させていただきますが、残念ながら入賞できなかった皆さんも含めて、全国大会に参加したという誇りを胸に、事故ゼロを目指して、これからも交通安全と環境にやさしい運転の励行に努め、広く社会に貢献されるようお願いいたします。

以上で講評を終わります。